桜の聖母学院新聞

発行所
福島市野田町七丁目11番1号
桜の聖母学院高校新聞部

桜華祭3年ぶり開催

本学院中学校高等学校合同の公開文化祭「桜華祭」は、毎年8月下旬～9月上旬の土日2日間にわたって開催され、多くの来場者で賑わってきた。しかし新型コロナウイルス感染症の影響により、一昨年は内部公開で各クラスの仮装を講堂ステージで発表したのみ、そして昨年は第5波により完全に中止となった。だがワクチン接種もほぼ行きわたり、行動制限もなかった今年は、来場者を限定した上で、実に3年ぶりの公開の桜華祭を、8月27日(土)～28日(日)に開催した。

これまで桜華祭は、土曜日午前中にまず生徒たちだけでオープニングを行い、日の計1日半で一般公開、その日の午後と翌日曜日全日というパターンが定番だった。だが一般公開には、生徒の家族はもちろん他校生や地域の方々などが一斉に押し寄せ混雑するため、せめて家族にはゆっくり見てもらおうと、コロナ禍の少し前から、土曜日の午後は家族のみに公開、日曜日には制限なしの一般公開という形をとってきた。

今年の桜華祭は、さすがにまだコロナ禍以前の形に完全に戻すことはできず、土曜日の午後は内部の生徒たちだけで楽しむ公開、日曜日は現役生徒の家族と、桜の聖母学院幼稚園・小学校の児童保護者に限定した上で、午前と午後に分散して来場してもらう公開となり、残念ながら卒業生も含め一般客は来場できなかった。また、文化祭の定番である食べ物を作って提供する模擬店やバザーも、今回は見合わせざるを得なかった。それでも、各クラスが工夫を凝らした展示を制作し、来場者に楽しんでいただける企画が復活し、特に高校入学と同時にコロナ禍に突入した3年生は、最初で最後の桜華祭にこれまでの思いのすべてをぶつけて取り組んだ。

8月25日(木)の午後と、26日(金)の丸1日は、各クラスの展示の準備に追われた。現在の生徒たちは、コロナ禍のために多くの学校行事が中止・縮小になった世代。クラスの仲間と協力しながら時間をかけて大きなものを作るといった経験は高校では初めてで、授業ではわからない仲間の新たな一面を発見したり、雑談を交えながらの作業の楽しさなど「学校行事っていいなあ」と改めて実感。縁日系、ゲームセンター系、迷路系などの趣向を凝らしたクラス展示は個性豊かで、感染対策などの制限がありながらも、来場者に精いっぱい楽しんでもらおうというホスピタリティー溢れるものとなった。

27日(土)午前のオープニングでは、まず生徒たちだけでステージ発表を鑑賞。今年これまた3年ぶりに復活した夏の福島名物わらじ祭りで「大わらじ大賞」を獲得したダンス部をはじめ、普段の活動の集大成として臨んだ吹奏楽部・音楽部の演奏や、新体操部の優雅な演技、選択音楽の琴の集団演奏などを楽しんだ。かけ声は基本的に禁止で、光り物による応援が許可されたものの、学校を舞台にした放送部の短編ホラー映画の上映では、さすがに悲鳴が轟いていた。

それに続く内部公開と翌日の限定一般公開では、クラス展示の他にも第一ホールでの中学生による何種類ものゲームコーナーや、体育館での保護者会「桜の会」のテイクアウト販売など、制限の中で工夫を凝らした運営が行われた。その間、講堂ステージでは、オープニングとはまた違った団体の発表が行われ、中でも有志生徒7名による「書道パフォーマンス」はこれまでにない取り組みで、出来上がった巨大な作品も素晴らしく、新たな可能性を拓いてくれた。

最終日夕方のフィナーレでは、スポーツ大会クラスTシャツのコンテストという新たな取り組みも行われ、大いに盛り上がった。こまめな消毒や換気など、これまでにない苦労はあったものの、3年ぶりの開催に生徒たちの心が一つになった、素晴らしい桜華祭となった。来年の開催についてもコロナ次第となるが、少しずつ制限が緩和されて元の形に戻る日を期待したい。

オープニング恒例のジェット風船は、口ではなくポンプで空気を注入

校歌

美しきわがまなびや
山脈はめぐりて高きその姿
黄金なすその
汝をば育み
黄金なすそのやすらいに
みそらはほほえむ

紙面紹介

2面
●「旧統一協会」何が問題か
●元統一協会員 竹迫牧師に聞く
●「新選組展」に行ってきた

卓球部 12期連続インターハイ全国大会へ

コロナ禍の影響を受けて一昨年は中止、昨年は無観客開催となった全国高校総合体育大会＝インターハイ。今年は四国4県で、感染対策をとりながらも、一部競技は3年ぶりの有観客で開催された。本校からは12期連続で団体出場の卓球部と、硬式テニスでも個人が出場した。

ダブルスはベスト16

本校史上最高のベスト16に勝ち進んだ、髙橋(左)熊田ペア（Nittaku提供）

愛媛県宇和島市の総合体育館で8月上旬に開催された卓球競技に、本校からは学校対抗とダブルス1ペア、シングルス3名が出場。学校対抗では初戦を突破したが、2回戦で広島の強豪・進徳女子に敗退。シングルスでは原田優衣さん（1年）が1回戦敗退、熊田朋華さん（3年）が2回戦敗退、髙橋美悠さん（3年）が3回戦まで進出するも、愛知・桜丘の選手にベスト16を目前に涙を飲んだ。

その髙橋さんと熊田さんが組んだ3年生ペアが、ダブルスでは快進撃。鹿児島女子と愛媛・済美のペアを次々と撃破し、本校としては過去最高のベスト16に駒を進めた。しかし優勝した大阪・四天王寺のペアにゲームカウント1―3で屈した。なおこの優勝ペアは世界やプロのTリーグで活躍する選手たちで、そこから1ゲームでも奪ったのは本校ペアと準優勝のペアだけという圧倒的な強さだったから、本校ペアは大善戦だったと言えよう。

硬式テニスで中澤さん出場

中澤楓さん

かつてソフトテニス部が何度かインターハイ全国大会に出場したものの、現在は休部状態。代わって、個人で競技を続けてきた中澤楓さん（2年）が、硬式テニス競技で本校から久々の出場を果たした。

高知市で行われたシングルス1回戦では、宮崎商業の選手に敗れたものの、本校運動部の歴史に新たなページを書き加えた。

全国教職員大会2連覇！

昨年は地元福島で開催された全国教職員卓球選手権大会で、初出場ながら地元福島県チームの団体優勝に貢献、ダブルスでも優勝した本校の遠藤彩樺先生と熊谷亜美先生。ディフェンディングチャンピオンとして臨んだ今年8月の岡山大会でも、団体とダブルスで見事二連覇を達成。シングルスでも郡山女子大附属の先生に次いで2位に熊谷先生、3位に遠藤先生と、福島県勢が上位を独占した。

全国教職員卓球大会2連覇を果たした、遠藤先生(左)熊谷先生

祝！C.N.D.来日90周年

コングレガシオン・ド・ノートルダム

修学旅行3年ぶり長崎へ

コロナ禍も3年目となり、経済や社会は徐々にではあるが以前の活動を取り戻しつつある。本校では2019年に実施した海外カナダ・国内長崎の選択修学旅行を最後に、一昨年は中止、昨年は北陸方面での実施となっていた修学旅行を、目的地を従来の長崎を中心とする九州北西部への3泊4日に戻し、10月に実施する予定だ。この機会に、本校修学旅行の歴史と、長崎に行く意義について振り返っておきたい。

京都・広島から長崎そしてカナダへ

本校では長年、定番とも言える京都・広島方面の修学旅行を、2学年全員で10月に実施してきた。行き先更されたこともあった。

しかし2018年の入学生から英語科が募集停止になったことにより、ESTAもその年の2年生で役目を終えた。だがそうなると、国際教育を謳う本校が提供する海外プログラムがなくなってしまうため、考え出されたのが入学後に海外か国内かで希望をとり、海外については希望者が30名以上の場合に成立して、各自が希望する方に行ける、選択修学旅行だった。

海外の行先は、本校の発祥地であるモントリオールを中心とした、カナダ東部ケベック州などのフランス語圏。5泊7日のためESTAのようにホームステイや語学研修はできないが、世界三大瀑布の一つナイヤガラの滝やカナダの紅葉を楽しみ、モントリオールでは創立者の足跡を辿ったり、姉妹校との交流も。一方国内は、従来通り九州北西部への3泊4日で、費用はほぼ3倍の違いがある。

最初の実施となった2019年は、海外希望者が国内を上回る53名となったが、海外組の出発前日から東日本を縦断した台風19号により、綱渡りのカナダ渡航に。幸い創立者のお導きか全員無事に参加でき、以後の継続も決まっていた。

ところがその3カ月後から始まった新型コロナウイルスパンデミックのため、既に海外・国内の選択を終えていた2020年実施予定の学年は、涙の中止に。そして昨年本校としては初の北陸方面への2泊3日で実施され、今年ようやく九州北西部まで戻すことができた。現在の2年生は中学校の修学旅行もコロナ禍で中止になった学年でもあり、10月17～20日の旅行を心待ちにしている。

ただし今後はコロナ禍が収まったとしても、海外で進むインフレやこのところの円安により、海外修学旅行を以前と同じ費用で実施することは難しく、選択修学旅行再開の見通しは今のところ立っていない。

カトリック校ならではの長崎の魅力

今年の旅程では、新幹線等を乗り継いで羽田空港に行き、飛行機で福岡空港へ。太宰府天満宮に立ち寄ってバスで長崎へ。夜に宿で原爆被爆者の講話をうかがう。2日目は浦上天主堂で神父様のお話を聞いた後、原爆資料館からスタートし長崎市内を班別自主研修。その日のうちに佐世保のハウステンボスに移動し、夕食ではテーブルマナーを学ぶ。翌日はハウステンボスを楽しんだ後、バスで佐賀県の吉野ケ里遺跡を訪問し、熊本市内の宿へ。最終日は阿蘇山の雄大な自然を満喫し、午後に熊本空港から再び羽田を経由し福島に帰るというスケジュール。

目玉はたくさんあるが、やはりカトリック学校ならではの目的地は長崎だ。伝統の平和学習も、ウクライナで核兵器が使用される懸念がある今、もちろん大切だが、2018年7月、長崎・熊本・天草の潜伏キリシタン関連史跡が、世界遺産に登録されたニュースは、記憶に新しい。その史跡は五島列島などにも広く散在するが、今回訪れる長崎市内では、幕末の1864年に建造された現存する日本最古の教会・大浦天主堂がその一つだ。翌1865年には、二百年以上にわたる迫害を生き延びた潜伏キリシタンが名乗り出るという「信徒発見」の舞台ともなり、原爆でも被害を免れ、今回世界遺産となった。

そして2019年11月に来日したローマ教皇フランシスコも訪れた、長崎駅前の西坂にある「二十六聖人殉教碑」だ。1597年、主に京都在住の日本人キリシタンとスペインなどの外国人宣教師が、豊臣秀吉の命により捕らえられて長崎まで歩かされ、当時ほとんどの住民がキリシタンだった長崎で、見せしめとして処刑された場所で、その後のキリシタン迫害の幕開けともなった。今回は教皇フランシスコの訪問以来、初めての長崎修学旅行でもあり、大浦天主堂と共に長崎市内自主研修のチェックポイントとしている。

9月23日の西九州新幹線の開業で活気づく長崎を、本校修学旅行では来年以降も訪れる予定。本校だからこそ行く理由のある長崎とカナダに、いつかまた選択で行ける日が来ることを待ち望んでいる。

4年前世界遺産になった大浦天主堂

3年前ローマ教皇も訪れた、26聖人殉教碑

フランスからカナダ、カナダから福島へ

私たちの学校の創立母体である、カナダのカトリック修道会「コングレガシオン・ド・ノートルダム（以下C. N. D.）」が、ここ福島に来日してから今年で90年となった。この節目に、その経緯や戦時中の苦難、そして戦後の桜の聖母学院の歴史を振り返り、10年後の100周年、さらにその先の未来への懸け橋としたい。

1932年に来日した5名のC.N.D.シスター。中央が初代院長メール・アルカディウス

C. N. D. のルーツを遡れば、1658年カナダ東部のモントリオールに小さな学校を開いたフランス人女性・マルグリット＝ブルージョワに辿り着く。1620年にシャンパーニュ地方の中心都市トロワに生まれたマルグリットは、20歳で修道女の道を歩み始め、当時フランスが開拓していた北米大陸の新天地カナダに1653年に渡り、まだヴィル・マリーという小さな村だった現在のモントリオールで活動を始め、5年後に開いた学校が、私たちの桜の聖母学院の原点なのだ。

その後多くの苦労を重ねて教育事業を展開し、その母体となった共同体が、1698年にローマ教皇庁によって正式に女子修道会として認められた。これがC. N. D. だ。

1700年のマルグリットの没後も、その遺志を受け継ぐ女性たちが続々入会し、1900年に会員は千名を超え、カナダ国内で120の教育施設を運営、アメリカにも15の修道院を設けるなど、発展を続けた。

1918年に第一次世界大戦が終結、4年後ローマ教皇に即位したピオ11世は、新たな試みを次々と発信した。その一つがアジアへの宣教で、それに応えたのがカナダやアメリカで大きな成長を遂げていた、C. N. D. だった。1932年5月の総会で、日本における支部創設が決定された時、真っ先に派遣を希望したのは、既に多くの要職を歴任し、68歳になっていたメール・アルカディウス。この初代院長のもとに、看護師や調理師、ピアノ教師などの資格を持つ若い4名の会員が選ばれた。

1932年10月2日、5名は多くの会員に見送られながらモントリオールを出発、紅葉真っ盛りの中を大陸横断鉄道で西海岸のバンクーバーへ。10月8日に出航し10日余りの太平洋横断の船旅の末、10月19日に東京に上陸。翌20日には鉄路でここ福島に到着したというわけだ。

まだまだ外国人など珍しかった当時の福島で、シスターたちは特技を生かし西洋料理や音楽、またフランス語や英語を教え、病人を見舞うなどの活動を開始。

戦時中の苦難と、戦後の桜の聖母学院の誕生

1938年、シスターたちは修道院の一角に、待望の教育施設である雛菊幼稚園を開園。雛菊は創設者マルグリット＝英語でマーガレットからとったものだ。

現在では桜の聖母学院の創立を、この雛菊幼稚園の開園の年として数えている。

ところがこの幼稚園は、わずか3年で閉園となる。1941年12月に始まった太平洋戦争で、カナダ人は敵国人となり、修道院は接収されて外国人の捕虜収容所に。シスターたちは帰国するか、日本に残って厳重な監視のもとで抑留生活をするか迫られるが、長い船旅が無理な病気のシスターもいたため、日本に残る道を選択。会津若松での厳しい抑留生活に耐えながら、もし戦争が終わって福島の修道院に戻れたら、戦争で親を亡くした子どもたちを引き取って学校を始めましょう、と希望を持ち続けた。

その願いはすぐかなえられた。終戦の翌年1946年、東京から引き取った16名の戦災孤児と、地元の学齢期の子どもたちを児童として、桜の聖母学院初等学校が開校。翌年の学制変更に伴い、桜の聖母学院小学校となり、最年長の児童の卒業に合わせて1949年には中学校が設立された。3年後の1952年には高等学校を開設。なので高等学校だけをとれば、今年で創立70周年ということになる。さらに3年後には桜の聖母短期大学を開設し、ここに県内唯一の総合学院が完成した。

幼稚園と小学校が共学、中学校以上が女子校というスタイルは現在でも変わらないが、生徒数の増加に伴い1975年には、花園町の幼稚園・小学校・短大から分離して、野田町に中学高校の新キャンパスを開設。3年後には野田町キャンパス50周年を迎える。

400年前にフランスで生まれた一人の女性が、大西洋を渡ってカナダ東部に蒔いた種が大きく成長し、さらに太平洋を渡ってここ日本の福島の地に深く根を張った。このようにグローバルかつ長い歴史を誇る桜の聖母学院が、これからもますます発展することを、願って已まない。

1935年建設のC. N. D. 福島修道院。2011年まで現存した
Archives C.N.D. - Montréal

▼今年の4月1日をもって、成人年齢を2歳引き下げる「18歳成年」がスタートした。この時点で、既に19歳だった昨年3月の卒業生と、今年3月に卒業したばかりの18歳の先輩たちが、一斉に成人となった。もっとも成人式はまだなので、あまり自覚はないようだが▼そして翌2日以降、現在の高校3年生の中で18歳の誕生日を迎えた者から、順次成人となっている。実施前には様々なトラブルが懸念されたが、半年が経過した今、実際にはこれまでと変わらないというのが実感だ▼引き続き家族と同居して高校に通い、学費や生活費を出してもらっている限り、あくまで親が保護者であり、その親の意志に反して18歳の子が自由に契約を結んだり、同意なしに結婚したりというのは、確かに現実的ではない▼変化を実感するのは、高校を卒業して実家を出る時からだろう。18歳が未成年だった時代は、アパートの契約なども保護者の同伴が必須だったが、今の3年生は2～3月の新居選びも18歳になっていれば一人で可能。実際には親と一緒に行う人が多いとは思うが、いざ親が福島に戻って一人暮らしが始まれば、名実共に成人の自己責任生活となる▼世間では様々な魔の手が、独り立ちしたばかりの若者を、手ぐすね引いて狙っている。その一つが今話題の旧統一協会をはじめとする、カルト・新興宗教の類だ。旧統一協会については裏面の特集記事に譲るが、この名前が30年ぶりに日本社会で話題に上るようになったきっかけが、7月8日の安倍元首相銃殺事件だ▼参議院議員選挙戦の終盤に起こった衝撃的なテロ事件だったが、その7日後に岸田首相は故安倍氏を9月27日に国葬で送ることを表明。だがこの決断が、国民の中に賛否を巻き起こした▼戦後に国葬となったのは、1967年の吉田茂元首相のみ。果たして故安倍氏が国葬にふさわしいのか、岸田首相が説明に追われる中で9月8日、英国女王エリザベス二世が96歳で死去。70年の長きにわたる在位と国民に愛された人柄により、異論なく国葬となった▼18歳選挙権は、既に6年前から実施されている。私たちも有権者もしくは高校在学中に有権者となる国民として、この国の政治に常に関心を持ち続ける必要を痛感する、日英で国葬の9月である。

はりこ

「旧統一協会」何が問題か

本校では定期考査の一斉返却日だった今年7月8日の白昼、安倍晋三元首相の射殺が起こったが、容疑者の動機としてにわかに注目を集めたのが「旧統一協会（世界平和統一家庭連合）」だ。以来ニュースや情報番組などで、この話題が出ない日はないという状況が続いている。桜の聖母学院高校では、2年で必修の「倫理」の授業の、年度末最後の3時間を使ってこの団体についてかなり詳しく学習しているので、卒業生や今の3年生はある程度わかっている。ただ1・2年生に関してはまだ「免疫」がないため、世間がこの話題で持ちきりの今、この紙面を借りて正しい知識をお伝えする。

この団体はともかくもキリスト教の一派を名乗っており、その点で本校のようなキリスト教系学校の出身者は、とりわけ注意しなければならない。高校時代に「宗教」の授業や宗教行事に全く関心がなかった人でも、「お祈り」や「聖歌」など何かしら心に残り続けるものがある。そして私たちのこれからの人生が、順風満帆という保証はない。卒業後に親元を離れて進学した大学で、あるいは就職した職場で、大きな挫折に直面した時などに、「人はみな罪びとですよ」等々、どこかで聞いたキリスト教的な言葉で救いの手を差し伸べてくる、それがこの団体の勧誘かもしれないのだ。だが、歴史と伝統があって社会的にも認知されているカトリック教会や、日本基督教団傘下のプロテスタント教会といった正統なキリスト教会は、「統一協会はキリスト教とは認められない」という声明を、過去幾度となく出してきた。

ところでなぜ「旧統一協会」という中途半端な名称を使うのか、また多くのマスコミが「旧統一教会」と表記するのはなぜか。1954年に韓国でこの団体が設立されて以来、彼らの正式名称は「世界基督教統一神霊協会」だった。だから略称はその一部をとって「統一協会」とならなければおかしいが、彼らは略称になると字が変わって「統一教会」と名乗る。こんな団体が他にあるだろうか。これは明らかに一般のキリスト教会を装うカムフラージュであり、マスコミなどが彼らの自称する「統一教会」の略称を用いてしまうことは、彼らの狙いの片棒を担ぐことになりかねないので、彼らの活動に反対する立場の人々は、せめて正式名称の漢字を使って名乗るべき、と敢えて「統一協会」と表記してきたというわけだ。

後述するように1960年代以降、この団体が日本の大学サークルなどに入り込んだり「霊感商法」をはじめとする様々な問題を引き起こして知られるようになり、彼らは宗教法人の名称の変更を計画、2015年文部科学省から認可され、現在は「世界平和統一家庭連合」と名乗っている。ただその名称よりも旧称の方がお馴染みなので、今でも「旧統一協会（教会）」と報道されているのだ。

彼らがキリスト教の一派を自認するからには、百歩譲ってもその経典は聖書で、教祖である救い主＝メシアはイエスでなければならないが、それがそもそも違う。彼らは「聖書も素晴らしい書物だが、不思議な話が多く述べられている。それら聖書の謎を解き明かした書物があり、それを読めば十分聖書も理解したことになる」という。その経典が「原理講論」で、ほとんどの大学にある統一協会系サークルが「原理研究会（CARP）」と名乗るのも、この経典の名に由来する。

そして、今回何度も生前の映像が放映されている、この団体の創始者・文鮮明（ムン・ソンミョン、1920～2012）を、イエスに代わる「真（まこと）のメシア」と位置づける。文は16歳の時、夢に現れたイエスに「私が成し遂げられなかったことを、お前が完成させてほしい」と後継を託されたという。文は、「地上天国」の実現と、この世からサタンの血を消し去るという教義を掲げて活動を開始したが、現在韓国の信者は約3万人、世界では日本が最も多く8～10万人と報じられている。

原理講論によれば、この世で絶えない戦争や犯罪、家庭の不和などは、すべて人類の祖先であるアダムとエバ（一般にはイブだが、聖書ではエバ）が最初に犯した罪が原因という。それによりサタンの血が人類に入り、彼らから生まれた我々子孫全員にサタンの血が混じっているというのだ。通常の心理状態では信じ難い話だが、戦争や犯罪、環境破壊などの背後にある人間の利己心や醜さに失望した時や、仕事で失敗したり相手を傷つけたりして自己嫌悪に陥った時などに、それはあなたにも流れているサタンの血のしわざだ、と説明されれば、何十人に一人はそうかも、と思うかもしれない。そこですかさず「その血を浄めたくありませんか？」と誘うのだ。

有名な「合同結婚式」は、実はこの血を浄める儀式なのだ。文が選んだ男女信者が結婚し、この夫婦から生まれた子ども＝祝福二世には、もはやサタンの血は流れていない。この子どもたちが地上に満ちれば、世界は救済される。彼らはそう信じて合同結婚式に参加し、見知らぬ相手と「祝福家庭」を築く。なお文の没後はその妻である「真の母様」韓鶴子（ハン・ハクチャ）が後継を務めているのは、一連の報道の通りだ。

それでもここまでなら、百歩譲って信教の自由かもしれない。しかしここから説明する経済活動（彼らは「万物復帰」と呼び、「復帰」の頭文字から「F」とも言う）が多くの被害者を生み、その活動にこき使われる信者もまた被害者となってきた。

信者は「修練会」と呼ばれる長期間の合宿で統一協会の教義＝統一原理を叩き込まれ、「私たちは、親も学校の先生もマスコミも知らない、すごい秘密を知ってしまった」という精神状態、いわゆるマインドコントロールにおかれる。そうなるともはや、家族や友人が止めようとしても「サタンが彼らを操って、私を誘惑している。サタンの試練に負けないぞ」と、自分で勝手にマインドコントロールを強化する一方となる。そして地上天国建設のために、さらには世界を救うために、なぜか訪問販売＝経済活動に駆り立てられていく。大学生なら学業そっちのけとなり、留年・退学と続いた後、親との連絡も途絶え、行方不明となる者も数多く生まれてきた。

信者は、自分たちが長時間かけて理解した統一原理を、いきなり訪問した家の初対面の人に説いても、まず聞いてもらえないので、正体を明かさなくても許される、と教えられている。知らずに買った人が、死後に霊界で天国行きだと判定され、実は生前に買った商品の代金が、地上天国のために使われたおかげだったと、その時に初めて知る。だから知らずに買った人も、死後に必ず感謝する、言い換えれば、売りつける相手を救ってあげている、という使命感を原動力に、経済活動に励むのだ。「霊感商法」として有名な壺や印鑑以外にも、珍味、花束、ハンカチなどの販売、ニセ街頭募金、手相による運勢鑑定等々、普通ならなかなかできない行為を、命を削ってでも行えるのは、このためだ。酷使の末に使い物にならなくなり、実家に帰された時には、すでに廃人となっている。

もう一つの活動が、信者を増やす伝道・勧誘だ。一般的な宗教ならば、来るものは拒まずという姿勢で、無理強いはしない。しかし統一協会は、一線を越えて物凄い頻度で勧誘してくるので「以前からキリスト教に関心があったが、初めて声をかけられたキリスト教っぽい団体がこれだった」というきっかけで入信してしまう人も。

昔から有名な手段が、繁華街や駅前などで行う「アンケート」と、「ビデオセンター」だ。「最近の性の乱れをどう思いますか」といった質問の、しかも出所はっきりしないアンケートは、まず疑った方が良い。彼らの目的は調査ではなく、同じような問題意識を持っている人を見つけ出すこと。少しでも脈があると見れば「ぜひ連絡先を教えてもらえませんか」あるいは「すぐそこにうちの事務所があるので、ちょっと寄って行きませんか」とビデオセンターに誘う。ビデオ・DVDは彼らの有効なツールで、さらに関心を示せば、前述の修練会へと進むわけだ。

大学キャンパスでの勧誘は、コロナ禍の今では下火になっているかと思いきや、むしろ絶好のチャンス。入学してもオンライン授業ばかりで友人のできない新入生が、たまの登校日に学食で一人食事をしていると、正体は名乗らずに、ボランティアサークルや自己啓発セミナーなどを装って勧誘してくる。特に自分のための受験勉強で他人を蹴落としてでも志望校に入ったことに負い目を感じ、せめて大学では他者や社会のために何かしたいと思っている心優しい新入生などは、格好のターゲットだ。

とはいえ私たちは「だから宗教は怖い」と味噌もクソも一緒にせず、正統なキリスト教会と、統一協会以外にもまだまだあるカルト系団体を、正しく見分ける判断力を持って社会に出て行く必要がある。

元統一協会員 竹迫牧師に聞く

異色の経歴を持つプロテスタント牧師

統一協会問題が再燃して以来、地道にこの問題に取り組んできた専門家がニュースや情報番組に引っ張りだことなっているが、その一人が、かつて自身が統一協会員として活動し、現在はプロテスタント教会の牧師として統一協会からの脱会を支援している、竹迫之（たけさこ・いたる）氏だ。コロナ第七波渦中で県境を越える取材が難しい中、同じ福島県内なら大丈夫だろうと白河市のご自宅を兼ねた教会を訪れ、深く重いお話をうかがった。

実体験を熱く語る竹迫牧師

この夏に盛り上がった明るい話題が、夏の甲子園・深紅の大優勝旗の「白河の関越え」。栃木県との県境、人口約6万人のその白河市の、日本基督教団白河教会で20年間牧師を務める竹迫氏は、仙台の東北学院大学や宮城学院女子大学といったプロテスタント系大学の必修科目「キリスト教学」の非常勤講師でもある。私たちの学校の宗教にあたる授業だが、その竹迫先生の経歴は、波乱万丈だ。

秋田出身で埼玉で育った竹迫氏は、キリスト教はもちろん宗教には全く縁がなく、映画監督を目指す少年だった。しかし大学浪人中に東京・池袋で統一協会の勧誘を受け、ビデオセンターで見せられた映像にはまってしまい入信、さらに友人を7名も勧誘・入信させてしまう。名門・日本大学芸術学部に入学後も、統一協会の活動を続ける竹迫氏に、両親は猛反対。そこで協会は、遠く離れた北海道での経済活動を命じ、数カ月間ハンカチを売り歩いていたという。

しかし家と家の間の広い北海道のこと、睡眠時間3～4時間で疲労も極限に達していた竹迫氏は、知床半島の斜里町で販売活動中に足をすべらせ、片足首を骨折してしまう。だが健康保険証も持っておらず病院にかかれないため、協会は東京に帰ってくるよう指示。添え木だけで松葉杖もなく、釧路から一人でフェリーに乗って東京へ。ところが統一協会系の一心病院に入院できるのかと思いきや、反対する両親の待つ実家に帰されてしまった。

両親は脱会活動を支援する日本基督教団の牧師に依頼し、脱会のための説得にかかる。だがこの時もまだ統一協会の教義を信じていた竹迫氏は、こういう場合のために教えられていた、脱会したふりをする「偽装脱会」の手を使い、両親と牧師を信じさせる。しかし「お前が辞めても、お前が誘い込んだ7人の友人はどうするんだ」と問われ、牧師と共に友人らの元へ。彼らは竹迫氏ほどの強い信念はなく、牧師から統一協会の矛盾を示す様々な資料を見せられてあっさり脱会を決めた。ところがそのうちの一人がうっかり協会に「竹迫が連れてきた牧師の説得で辞めることにした」と連絡、協会では「竹迫が裏切った」ことになってしまい、その時から自宅に無言電話がかかり始めた。それまで竹迫氏自身が、統一協会に反対する報道を行うマスコミなどに対してやらされていた無言電話作戦を、まさか自分が受けるとは思いもしなかった。釈明のため協会に出向いた竹迫氏を、幹部らはスパイ呼ばわりし、松葉杖を取り上げた上で路地裏で暴行を加えた。だがこの時点でも竹迫氏は、統一協会を辞めるつもりはなかったという。

骨折が治るまでの約3か月間、竹迫氏はこの機会に聖書を読み直してみようと思い立つ。しかし統一協会流の聖書の読み方を叩き込まれているため多くの疑問が生じ、その質問を前述の牧師にぶつけた。だがその牧師のもとには一日20件もの統一協会がらみの相談が寄せられるため、なかなか質問に答える時間もなく、その相談を竹迫氏が手伝うことに。そうすると竹迫氏が語る自らの体験を聞いた相談者が、次々と脱会するという現象が起こった。

そのうちにその牧師から、聖書をきちんと勉強したければそれ専門の大学へ行くよう勧められ、既に日大芸術学部を中退していた竹迫氏が入り直した大学が、統一協会問題の元祖専門家として知られ、協会から「大サタン」と怖れられた浅見定雄教授がおられた、仙台の東北学院大学神学部だった、というわけだ。

実体験に基づく恐ろしさを伝えて30年

プロテスタント系大学の神学部を卒業して得られるのが牧師の資格で、最初に青森の日本基督教団の教会に赴任した竹迫氏は、東奥義塾や弘前学院といった青森県内のプロテスタント系高校の聖書の授業も受け持つことに。するとどうしても自らの体験から、カルトの恐ろしさを語ることになったのだが、生徒や教員はそんな話に半信半疑だったという。ところが1995年に地下鉄サリン事件に端を発するオウム真理教問題が起こり、手のひらを返したように「竹迫先生の話は本当だ」と信じてもらえるようになったそうだ。

今、竹迫氏は私たちに語る。「日本は戦前、国家神道と政治が両輪となって国民を戦争に駆り立てた反省から、戦後は一転して憲法や教育基本法で、『国及び地方公共団体が設置する学校は、宗教教育その他宗教的活動をしてはならない』と定めました。だから公立学校では、宗教はもちろん、カルトの恐ろしさも教えられない。そのことがかえって、カルトが日本の若者に付け入る格好の温床になってしまっている。だが皆さんのカトリック学校や、プロテスタント系学校といった私立学校では、それが教えられる。だから皆さんは大学に入ったら、ぜひそのことを公立学校出身の学生たちに教えてあげてほしい。それがミッションスクールの使命、存在意義です」。

「90年前に来日して皆さんの学校の礎を築いたカナダ人シスターたちも、私が勤める宮城学院を創設した宣教師も、当時の日本の女性の地位がいかに低かったかを実感し、その向上のための女子教育に力を注ぎました。これらミッションスクールが行ったのは、そんな日本の女性に『知性』を与えることです。ところが従順な集金奴隷が欲しいカルトは、知性を奪おうとする。そこが、まっとうな宗教とカルトを見分ける一つのポイントです」。

「法律や条約が整備されてきたとはいっても、現在でも日本の女性の人権はまだ十分に保障されていないし、多くの女性自身がそのことに気付いていない。皆さんはぜひ高校生のうちに、女性の人権について学んでください。新約聖書は二千年前の書物ですが、今よりもはるかに女性の地位が低い時代だったにもかかわらず、多くの女性が登場し、重要な役割を果たしています。もし聖書が現代に書かれたらどうなっていたか、想像できるでしょう」。

統一協会は、2009年の刑事事件を契機に「コンプライアンス宣言」と称して訪問販売による霊感商法は一切やっていないと公言しているが、竹迫氏いわくその体質は何も変わっていない。ただ、不特定多数に売りつけるのではなく、手相や家系図の鑑定などを使ってまず入信者を獲得し、その信者から献金をとことん絞り取る方法に重点が移っただけ。献金額に応じてポイントの「景品」として壺や教祖の御言葉集が付与される仕組みだ。また韓国の本部への送金も、信者が現金を携えて渡航し、現地で「先祖解怨」などの宗教行事への見返りとして献金する方法に変わっているので、わかりにくくなっているという。

最後に、私たちが大学進学後、自分はひっかからないとしても、友人がこういったカルトにはまりそうになったらどうすればよいか、アドバイスをいただいた。もし友人が既にかなり深入りしていたなら、自分も引き込まれる可能性があるので要注意。そして大学の学生課など、周囲の責任ある大人に相談すること。どの大学にも必ず、こういった場合に対応する仕組みが用意されているはずだ。

竹迫氏の実体験に基づくお話は、重く説得力があり、生きるために大切なことを数多く教えていただいた。

日本基督教団白河教会聖堂のステンドグラスの前で

「新選組展」に行ってみた

7月23日から9月19日まで、会津若松市の福島県立博物館にて開かれた「新選組展2022」。これまでも小説やアニメ、ドラマ、映画と様々な形で描かれ親しまれてきた新選組。彼らの本物の遺品と正確な歴史的事実から実像に迫ろうとする展示会が、ゆかりの地である会津若松で開催されるということで、猛暑のなか出かけてみた。

文久3（1863）年2月4日に江戸で結成された壬生浪士組を母体にした政治集団であり、尊王攘夷を目指し徳川幕府に与して戊辰戦争を最後まで戦いながら、東北から箱館（函館）へと転戦し、激動の時代を懸命に生き抜いた新選組。現代に至る150年余りの間、小説やアニメ、大河ドラマなどで親しまれており、誰しもが一度は何らかの形で見聞きしたことがあるのではないだろうか。

その一方で、近代歴史学の分野では新選組やその周囲の調査・研究が進んで新たな史料が発掘され、これまで描かれてきた新選組像とはまた異なった姿が明らかになってきた。

その新選組について、最もゆかりのある会津若松と京都で開催されることとなった、今回の新選組展。全国的にも新選組を扱った大規模展覧会は約20年ぶりということで、コロナ禍の中でも多くの人が訪れていた。北海道から京都まで様々な史料が集められ、隊士個人の遺品から、新選組として活躍する前の姿、隊士となって駆け抜けた激動の生涯まで、様々なエピソードがうかがえた。古い写真や達筆の書簡、刀、防具、また新選組の後ろ盾となった最後の会津藩主・松平容保公の史料も数多く展示され、地元会津ならではの視線が注がれていた。

会期中に、写真など一部史料は作品保護のため、後期は前期から十数点の史料を入れ替えるなどのきめ細かな工夫をして、約200点の貴重な史料が公開された。前後期通しての見どころとしては、県内初公開となる土方歳三の愛刀「和泉守兼定（いずみのかみかねさだ）」や、近藤勇についての研究起点となった近藤本人の書簡「志大略相認書（こころざしたいりゃくあいしたためがき・個人蔵）」、新選組きっての剣豪で、妻が会津藩士の娘など会津にゆかりの深い齋藤一（さいとうはじめ）の写真などが挙げられる。齋藤の写真に関しては、前期で齋藤個人のみの写真、後期で初公開となる妻の時尾らと写った家族写真が、簡易修理を施すなどして展示された。齋藤関係の写真を一堂に展示するのは今回が初めてで、前後期共に来場すればほぼすべての写真を見ることができるという、ファンにはたまらない体験もできた。

また後期である9月6日から19日までの見どころとしては、沖田総司が病に侵されていることを近藤勇の長兄である宮川音五郎に宛てて書いた書簡、隊士の一人である近藤芳助が所持していた貴重な1枚である、土方歳三の写真などが公開された。数多くの史料から、150年前に生きた彼らの実像が鮮やかに蘇る、またとない経験となった。

会津若松市の福島県立博物館前にて

編集後記

♥新選組展と竹迫牧師の取材は、どちらも多くの学びを得られた。ぜひ今からでも新聞部に！（近藤総司）

♪初めての新聞製作でしたが、完成してよかった。これから先輩方の後を継いで頑張ります！（土方勇）

♠私たち3年生にとって最初で最後の桜華祭を取材できて感無量。（沖田歳三）

大切な写真は
●広々とした空間を持つ —ファミリースタジオ—
●緑に包まれた —ガーデンスタジオ—
●絵画が楽しめる —サロンスタジオ—
わが家のメモリーアート PHOTO SALON ワタナベスタジオ
〒969-1612 福島県伊達郡桑折町字西大隅3-13
TEL024-582-3152 FAX024-582-3622

福島県知事許可（般-29）第22204号
中小企業IT経営力大賞 審査委員会奨励賞
有限会社 古山鉄筋工業所
専務取締役 古山 吉浩
2級建築施工管理技士 鉄筋基幹技能者
〒969-1761 福島県伊達郡国見町大字藤田字アラ田10-1
TEL（024）585-5129 FAX（024）529-6028
URL https://furuyamatekkin.com
E-mail：furuyama.tekkin@me.com

感動のそばに、いつも。JTB
旅は心の窓を広げます
お問い合わせ・お申込みは下記店舗まで。
—団体旅行—
㈱JTB福島支店
〒963−8004 福島県郡山市中町10−14 和久屋ビル2階
TEL 024−932−0657 FAX 024−933−6620
営業時間 9：30～17：30（土・日祝休業）
—グループ・個人旅行—
㈱JTB福島イトーヨーカドー店
〒960−8068 福島県福島市太田町13−4 イトーヨーカドー福島店1階
TEL 024−531−3090 FAX 024−531−3088
営業時間 10：00～19：00（イトーヨーカドーの休館日休業）

創業明治38年（1905年）地域と共にさらなる1世紀へ
ISO 9001 ISO 14001 認証取得
総合建設業
㈱利根川組
代表取締役 利根川 靖幸
本社
福島県伊達市霊山町掛田字本山57番地1
TEL:(024)-586-3121
FAX:(024)-586-3122
URL:http://www.tonegawagumi.jp/
整備工場
福島県伊達市霊山町字本山56番地
TEL:(024)586-3181

大学受験対策フェア実施中!
共通テスト対策はできていますか?
大学過去問・各社共通テスト対策など気軽にご相談下さい!
FBN 文化情報発信館 西澤書店
福島市大町7−20
Tel.024−522−0161
Fax.024−522−4139